令和７年度

事業報告書

社会福祉法人

県民厚生会

目　次

１．令和７年度事業報告　　Ｐ１　～　Ｐ３

２．法人単位資金収支計算書　　Ｐ４

３．法人単位貸借対照表　　Ｐ５

４．法人単位事業活動計算書　　Ｐ６

５．令和７年度法人行事日誌　　Ｐ７

６．わが事業所の取組み

【富士】Ｐ８　～Ｐ12

【藤枝】Ｐ13　～Ｐ17

【浜松】Ｐ18　～Ｐ23

令和 7 年度事業報告

１．　法人全体

・令和 7 年度に入りコロナの影響はほぼ無くなり、社会も普通の生活が営まれるようになりました。前年度コロナウイルスによるクラスターの発生した藤枝特別養護老人ホームは空き日数を大幅に改善させ、前年比 11 百万円の増収となりました。外国人採用増による高単価の派遣社員採用減により、人件費を大幅に減らすことにも努め、資金収支差額では赤字 2 百万円と対前年比で 25 百万円収支を改善させることができました。特養の収支改善により、藤枝施設の資金収支は 6 百万円の黒字となり、平成 30 年度以来の黒字を計上することができました。
・一方で、浜松施設では、前年度人手不足により事業休止を強いられた、ケアプランセンターの再開ができず、ケアプランセンターからの送客に頼るところの大きかった本館デイサービス及びヘルパーセンターの苦戦が続きました。ショートステイ及び機能訓練デイサービスを営む西館事業は、開業以来、初めて黒字となりました。施設全体で資金収支差額を前年比で 18 百万円改善させたものの、10 百万円の赤字となりました。
・この結果として、法人全体で、対前年比 12 百万円の減収となったものの、一般企業の営業利益に相当する事業活動資金収支差額は、前年度 8 百万円の赤字から、23 百万円の黒字と、大幅に改善しました。
・借入金返済があり、資金収支差額は残念ながら 30 百万円の赤字となりました。
・令和 6 年 4 月からの新人事制度開始により、人件費の大幅な増加傾向に歯止めをかけることには成功いたしました。
・また、令和 7 年度はミャンマーからの特定技能 1 号外国人を藤枝で 10 名、富士で 1 名受け入れ、これまでに採用した技能実習生及び特定技能外国人を含め、藤枝 16 名、浜松 2 名、富士 1 名の外国人が勤務いたしております。これにより、主に藤枝において割高な派遣社員との入れ替えに成功いたしました。
・令和 8 年度は、職員の協力を得て、介護報酬改定に合わせて休日日数を月 1 日減らすこととなりました。これにより更なる収益力強化を図るとともに、全施設黒字化を目指します。また、目標達成に応じた賞与支給を実施し、職員の目標達成意識の向上も図ってまいります。
・地域における活動といたしましては、地域交流イベントである「きらら祭り」を今年度も全施設で開催しました。その他の地域交流イベン

トも各施設で実施しております。

２．施設別

【富士】

・事業活動収入 222 百万円でした。前年比でプラス 0.3 百万円の横ばいとなりました。
・ヘルパーセンター、障害福祉ヘルパーセンター、ケアプランセンターが前年比プラスとなりました。
・施設全体の資金収支差額は 15 百万円の黒字でしたが、前年 30 百万円の黒字から半減いたしました。前期はグループホームの積立金取り崩し利益 9 百万円を計上しておりましたので、これを除外すると、前年比マイナス 5 百万円となります。高い収益力は健在です。

【藤枝】

・事業活動収入 603 百万円でした。前年比でプラス 5 百万円、プラス 0.9%となりました。
・特別養護老人ホーム（以下特養）が対前年比増収となりました。他の 3 事業は減収でした。
・特養は食費値上げ効果もあり、11 百万円の大幅増収となりました。空き日数もクラスターのあった前年度の 25.1 日から 11.8 日に大幅に改善いたしました。法人全体で説明した通り、外国人採用増による派遣社員の使用減を実現し、派遣費は前年より 13 百万円減少しました。これにより総人件費も 15 百万円のマイナスとなりました。この結果、資金収支差額は前年比 25 百万円プラスの、2 百万円の赤字となりました。
・ショートステイは前年比マイナス 1 百万円の減収となり、資金収支はマイナス 1 百万円の赤字に転落しました。稼働増加を図り、来期は黒字計上を目指します。
・デイサービスは前年比マイナス 5 百万円の減収となったものの、人件費減により、資金収支は 3 百万円マイナスの 11 百万円の黒字を計上しました。来期は稼働増加を図ります。
・施設全体の資金収支差額は前期比プラス 22 百万円の 6 百万円と、平成 30 年度以来の黒字となりました。令和 8 年度は特養の空き日数短縮とショートステイの増収を図り、施設資金収支黒字額の拡大を目指します。

【浜松】

・事業活動収入 406 百万円でした。前年比でマイナス 18 百万円、マイナス 4.2%となりました。
・ショートステイ（2.4%）及び機能訓練デイサービス（2.7%）の西館 2 事業所が増収となりました。
・グループホームは 1 百万円の減収となりました。経費節減に取り組み、赤字を 0.5 百万円改善させ、7 百万円の赤字となりました。藤枝特養、富士グループホームも引き続き赤字となっており、各事業所、赤字削減に取り組んでいるものの、入居系事業が厳しい状況です。富士で増益成果を出しておりますグループホームデイサービス事業を浜松におきましても当初予定より 2 か月遅れましたが、令和 7 年 12 月より開始いたしました。また、令和 8 年度は、入居系事業におきましては、休日削減により収益力強化を図ります。
・ケアプランセンター事業休止により、ケアプランセンターからの送客が減少した影響が続いており、デイサービスセンターが前年比マイナス 4 百万円の減収となりました。資金収支も前年度より 1 百万円改善したものの、7 百万円の赤字となりました。令和 8 年に入り大幅な改善が見られます。
・ヘルパーセンターは人手不足により件数が減少したため、前年比マイナス 8 百万円の大幅な減収となりました。資金収支差額も 2 百万円の赤字に転落しました。令和 8 年度は休日日数減少含め事業の効率化を図り、黒字計上を目指します。
・ショートステイは 2 百万円の増収となり、資金収支も 5 百万円改善させ、1 百万円の赤字と黒字化まであと一息のところまで来ております。
・機能訓練デイサービスは 2 百万円の増収となり、資金収支も 9 百万円の黒字となりました。西館事業の合計資金収支差額は開業以来、初めて 8 百万円の黒字を計上しました。
・ケアプランセンターは令和 7 年 10 月 1 日からの事業再開を目指しておりましたが、今期は再開できませんでした。遅ればせながら準備が整いましたので、令和 8 年 9 月より事業を再開いたします。
・施設全体の資金収支差額は 10 百万円の赤字となりました。前年度より 18 百万円改善させましたが、改善目標には 5 百万及びませんでした。業務効率化に取り組み、令和 8 年度は施設全体の資金収支差額の大幅な改善を図る所存です。

３．施設・事業所からの報告

８ページ以降の「わが事業所の取組み」をご参照ください。

資金収支計算書

（自）令和7年4月1日（至）令和8年3月31日

（単位：千円）

勘定科目			予算(A)	決算(B)	差異(A)－(B)
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	1,218,213	1,224,584	△ 6,371
		障害福祉サービス等事業収入	2,716	2,729	△ 13
		受取利息配当金収入	281	283	△ 2
		その他の収入	2,844	2,858	△ 14
		事業活動収入計(1)	1,224,054	1,230,455	△ 6,401
	支出	人件費支出	897,785	897,083	702
		事業費支出	129,557	128,326	1,231
		事務費支出	176,991	175,975	1,016
		利用者負担軽減額	2,396	1,908	488
		支払利息支出	2,110	2,108	2
		その他の支出	2,523	2,457	66
		事業活動支出計(2)	1,211,362	1,207,860	3,502
	事業活動資金収支差額(3)＝(1)－(2)		12,691	22,594	△ 9,903
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	7,646	7,646	0
		施設整備等収入計(4)	7,646	7,646	0
	支出	設備資金借入金元金償還支出	17,725	17,724	1
		固定資産取得支出	10,911	10,709	202
		ファイナンス・リース債務の返済支出	21,379	21,372	7
		施設整備等支出計(5)	50,015	49,805	210
	施設整備等資金収支差額(6)＝(4)－(5)		△ 42,369	△ 42,159	△ 210
その他の活動による収支	収入	その他の活動による収入	31,000	30,226	774
		その他の活動収入計(7)	31,000	30,226	774
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	9,996	9,996	0
		その他の活動による支出	376	372	4
		その他の活動支出計(8)	10,372	10,368	4
	その他の活動資金収支差額(9)＝(7)－(8)		△ 10,341	△ 10,338	△ 3
予備費支出(10)			3,000		3,000
当期資金収支差額合計(11)＝(3)＋(6)＋(9)－(10)			△ 43,018	△ 29,903	△ 13,115

前期末支払資金残高(12)	310,670	310,670	0
当期茉支払資金残高(11)＋(12)	267,651	280,766	△ 13,115

貸借対照表

令和8年3月31日現在

（単位：千円）

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	312,628	332,703	△ 20,075	流動負債	128,925	119,295	9,630
現金預金	102,162	126,820	△ 24,658	短期運営資金借入金	11,332		11,332
事業未収金	200,234	196,920	3,314	事業未払金	20,530	22,033	△ 1,503
未収金	1,328	526	802	1年以内返済予定設備資金借入金	17,724	17,724	0
未収補助金	7,741	7,041	700	1年以内返済予定長期運営資金借入金	9,996	9,996	0
貯蔵品	0	153	△ 153	1年以内返済予定リース債務	21,372	21,372	0
前払金	499	464	35	賞与引当金	47,970	48,170	△ 200
前払費用	662	776	△ 114				
固定資産	1,009,247	1,067,176	△ 57,929	固定負債	341,760	384,847	△ 43,087
基本財産	890,806	921,451	△ 30,645	設備資金借入金	171,792	189,516	△ 17,724
土地	213,468	213,468	0	長期運営資金借入金	26,676	36,672	△ 9,996
建物	677,337	707,982	△ 30,645	リース債務	52,791	74,163	△ 21,372
その他の固定資産	118,441	145,725	△ 27,284	退職給付引当金	90,501	84,496	6,005
構築物	7,241	8,037	△ 796	負債の部合計	470,686	504,143	△ 33,457
車輌運搬具	76	108	△ 32	純資産の部			
器具及び備品	13,376	18,245	△ 4,869	基本金	1,473,799	1,473,799	0
有形リース資産	67,897	86,215	△ 18,318	第１号基本金	1,309,299	1,309,299	0
権利	517	557	△ 40	第３号基本金	164,500	164,500	0
ソフトウェア	138	271	△ 133	国庫補助金等特別積立金	167,516	168,210	△ 694
無形リース資産	6,441	9,496	△ 3,055	その他の積立金	0	0	0
出資金	10	10	0	次期繰越活動増減差額	△ 790,125	△ 746,272	△ 43,853
差入保証金	22,715	22,715	0	(うち当期活動増減差額)	△ 43,853	△ 81,287	37,434
長期前払費用	25	68	△ 43				
				純資産の部合計	851,190	895,736	△ 44,546
資産の部合計	1,321,876	1,399,880	△ 78,004	負債及び純資産の部合計	1,321,876	1,399,880	△ 78,004

事業活動計算書

（自）令和7年4月1日（至）令和8年3月31日

（単位：千円）

勘定科目			当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)－(B)
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	1,224,584	1,235,807	△ 11,223
		障害福祉サービス等事業収益	2,729	2,175	554
		サービス活動収益計(1)	1,227,313	1,237,982	△ 10,669
	費用	人件費	904,446	960,933	△ 56,487
		事業費	128,326	125,866	2,460
		事務費	176,018	166,723	9,295
		利用者負担軽減額	1,908	1,716	192
		減価償却費	68,595	73,982	△ 5,387
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 8,339	△ 8,363	24
		徴収不能額	0	3	△ 3
		サービス活動費用計(2)	1,270,956	1,320,862	△ 49,906
	サービス活動増減差額(3)＝(1)－(2)		△ 43,643	△ 82,879	39,236
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	283	73	210
		その他のサービス活動外収益	2,858	4,757	△ 1,899
		サービス活動外収益計(4)	3,141	4,831	△ 1,690
	費用	支払利息	2,108	1,386	722
		その他のサービス活動外費用	2,457	3,643	△ 1,186
		サービス活動外費用計(5)	4,566	5,030	△ 464
	サービス活動外増減差額(6)＝(4)－(5)		△ 1,424	△ 198	△ 1,226
経常増減差額(7)＝(3)＋(6)			△ 45,067	△ 83,078	38,011
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	7,646		7,646
		その他の特別収益	1,587	2,811	△ 1,224
		特別収益計(8)	9,233	2,811	6,422
	費用	固定資産売却損・処分損	0	1,021	△ 1,021
		国庫補助金等特別積立金積立額	7,646		7,646
		その他の特別損失	372		372
		特別費用計(9)	8,018	1,021	6,997
	特別増減差額(10)＝(8)－(9)		1,214	1,790	△ 576
当期活動増減差額(11)＝(7)＋(10)			△ 43,853	△ 81,287	37,434
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		△ 746,272	△ 676,984	△ 69,288
	当期末繰越活動増減差額(13)＝(11)＋(12)		△ 790,125	△ 758,272	△ 31,853
	基本金取崩額(14)				
	その他の積立金取崩額(15)			12,000	△ 12,000
	その他の積立金積立額(16)				
	次期繰越活動増減差額(17)＝(13)＋(14)＋(15)-(16)		△ 790,125	△ 746,272	△ 43,853

令和7年度　法人主催行事日誌

月	主な行事	月	主な行事
４月	施設長会議（4日） 自立支援PT（11日）	10月	施設長会議（10日） 藤枝特養内部監査（16日）
５月	施設長会議（9日） 監事監査（会計監査）（23日） 令和7年度第1回理事会（30日）	11月	施設長会議（7日） 第三者委員会（7日） 令和7年度第4回理事会（28日）
６月	施設長会議（6日） 第三者委員会（6日） 藤枝DS内部監査（18日） 令和7年度定時評議員会（19日） 評議員選任委員会（19日） 令和7年度第2回理事会（19日）	12月	施設長会議（5日） 全施設管理者会議(14日) 監事監査（富士業務監査）（17日） 富士DS内部監査（17日）
７月	施設長会議（4日） 共同決定委員会（4日） 浜松HC内部監査（16日） 全施設管理者会議（20日）	１月	施設長会議（9日） 浜松機能訓練DS内部監査（21日） 令和7年度第5回理事会（30日）
８月	施設長会議（8日） 令和7年度第3回理事会（29日）	２月	施設長会議（6日） 自立支援PT（13日）
９月	施設長会議（5日） 自立支援PT（12日） 富士HC内部監査（17日）	３月	施設長会議（6日） 令和7年度第6回理事会（31日）

きらら富士　令和7年度　施設長事業報告

令和7年度は以下の4つの柱を掲げ、サービスの質の向上と職場環境の整備に邁進いたしました。

Ⅰ.自立支援介護の実践：利用者本位のサービス実現。
Ⅱ.事業所目標の達成：全職員による経営意識の共有と行動。
Ⅲ.生産性向上の実践：５S活動による安全な介護と働きやすい環境整備。
Ⅳ.接遇マナーの向上：心に寄り添う対応と適切な敬語の使用。

～この4つの目標に向けた取り組みと評価～

■Ⅰ.Ⅱ.特定の利用者をモデルとして選定し、個々の意向に沿った「自立支援プラン」を実践いたしました。結果として、スタッフ一人一人が利用者本位のサービス提供を意識する契機となり、モデルケースにおいても具体的な成果を得ることができました。日々の利用者数に対する意識についても、職員間の共有が進みました。

■Ⅲ.前年度より継続している「５S活動」に注力し、特に共有スペースの整理整頓を通じて業務効率化を図りました。創出された時間を直接的なケアに充てる「利用者還元」の意識付けを行いましたが、全職員への浸透度については依然として差があり、一部で「職員都合」の動きがみられるなど、次年度への継続的な課題となりました。

■Ⅳ.多くの職員が丁寧な言葉遣いと真摯な対応を実践しておりましたが、期中、一部職員の不適切な対応によりご家族よりお叱りを受ける事案が発生いたしました。「一部の不手際が組織全体の評価に繋がる」という接遇の厳しさを痛感する結果となり、個人の資質に頼らない組織的な教育の必要性を再確認いたしました。

～総括と次年度への展望～

全体として自立支援のモデル構築や環境整備には進展が見られた一方、生産性向上の真の意味での定着や、接遇の均一化には課題を残しました。
次年度は、今年度得られた成果を標準化するとともに、職員一人一人が「プロとしての接遇」を自覚し、誰からも信頼される事業所作りを最優先課題として取り組んでまいります。

施設長　望月　忍



グループホームきらら富士

入居、利用実績

今年度は退居4件（看取り3件・入院継続4件）、入院5件あり、累計60日の空床が生じました。これは過去7年間で2番目に多い空床日数となっています。入院発生時には可能な限り早期の退院支援に努めましたが、想定外の入院も重なり、入院による空床数は累計35日という結果になりました。
GHデイは目標777人に対し、延べ利用者数555人と目標未達となりました。一方で、GH新規入居4件のうち3件がGHデイからの移行であり、スムーズな入居支援につながっているという成果も見られました。GHデイからの移行の場合、入居までの期間が短くなる傾向にあり、最短は中4日での入居となりました。

地域やご家族との交流

様々な形で地域やご家族との交流を深めることができました。
8月　福祉体験、夏祭り：　DS合同で地域の中高生を対象に開催
9月　敬老会：家族に神輿を担いでいただき、お祝いムードを盛り上げることができました。GHデイ利用者様代表のご家族もお招きし、施設の雰囲気を知っていただく良い機会となりました。実際にこれが11月の入居に繋がりました。
1月　どんどん焼き：地域の方にお声がけいただき、参加させていただきました。当日現地に行けたのは入居者様1人でしたが、前日にDSと合同で団子作りを行いました。昔からの馴染みの行事に触れることで、入居者様の生き生きとした表情を見ることができました。

介護記録の電子化

前年度から取り組んでいた介護記録の「ほのぼの一元化」を、今年度1年かけて完全実施することができました。これにより、記録作成時間の短縮、転記作業の廃止、記録内容の充実化という効果が得られています。

きらら富士初の特定技能実習生の受け入れ

9月にミャンマー出身の特定技能実習生を迎え入れました。入居者様、ご家族も温かく迎えてくださり、本人もすぐに馴染むことができました。今では戦力として頑







きらら富士デイサービスセンター
誕生日願い叶え隊













今年度は、自立支援ケアの第一歩として、年に一度の誕生日を「ご利用者の願いを叶える特別な一日」にする取り組みを行いました。

想いに寄り添い、職員が一丸となって実現したその一日は、ご利用者との笑顔と意欲を引き出し、日々のリハビリや生活への前向きな力へとつながりました。

私たち自身も、その瞬間を共にできたことに大きなやりがいと喜びを感じています。次年度も、ご利用者・ご家族・ケアマネージャートと共に、毎日にワクワクと幸せを届けていきます！

さらに、事業において目標・数値共に達成し、デイサービスセンター職員一同の願いも叶えることができました！！

きらら富士ヘルパーセンター

令和７年度は①収入達成②自立支援の取り組み③業務効率化への取り組みの３つの目標を掲げチームで協力しながら取り組んでまいりました。
まず、①の目標でもある収入の達成については、体調不良や家庭の事情により職員が順番に休むという厳しい状況が続きましたが、その中でも互いにフォローしあい、助け合うことで目標を達成することができました。この経験を通し、チームとしての結束力や協力体制の重要性を改めて感じた１年でした。
②自立支援の実践については従来の訪問介護との違いを再確認するための勉強会を４回実施しました。お世話中心の支援ではなく専門職としての意識を持ちご利用者様ご自身ができることを大切にした支援を意識し取組んできました。
その結果、ご利用者様の自信や安心に繋がり、「ヘルパーの支援のおかげで元気に生活できているよ」といった感謝の言葉を頂く機会も増え、アンケートにおいても去年以上に良い評価を得る事ができました。
最後に、③業務効率化の取り組みではこれまで十分に活用できていなかった「ラインワークス」・「むすぼな」の運用を進めるとともに１人１人が効率を意識することで業務改善につなげる事ができました。
令和８年度！これらの取り組みを継続・更に活用させながら職員一人一人が協力し合い、より質の高いサービスが提供出来るよう努めてまいります。

念願の常勤ヘルパーさん・常勤パートヘルパーさん2名入職しました！！











R7年度　　きらら富士
ケアプランセンター



令和7年度は皆で助け合い、協力しながら、積極的に活動することができました。
その結果、目標を達成することができ、一人ひとりが成長を実感し、日々の努力が実を結んだことに大きなやりがいを感じる一年となりました。

また今年度はＡＩ時代の始まりを感じる年でもあり、「むすびなＡＩ」を導入していただいたことで、業務のスピードと正確さが大きく向上しました。
さらに「マイナポータル」のオンライン申請機能である『ぴったとサービス』を使用することで、居宅の届け・情報開示・新規、更新、区分変更などの行政手続きが、よりスムーズに対応できるようになりました。
遠方の医療機関とのカンファレンスにはZoomで参加することが定着し、利用者様やご家族とのやり取りもSMSやLINEの活用が増えています。

人材育成の面では、今年度もケアマネジャー試験合格者の実習生を１名受け入れました。指導を通して、新しい視点に気づかされたり、自らの支援を振り返る機会となり、良い刺激となりました。

BCP研修・訓練では、圏域の他事業所のケアマネジャーと一緒に取り組むことで、日頃からの横のつながりや、地域住民との顔の見える関係づくりの大切さを改めて感じました。こうした関係が、災害の時にも支え合える力につながると思います。

一方、業務が便利になる中で、私たちには、社会資源やｲﾝﾌｫｰﾏﾙｻｰﾋﾞｽについて、より深く知り、それを分かりやすく伝えていくことが、これまで以上に求められています。
利用者アンケートにおいても、サービス以外のことも相談したいという声があり、今後の課題として受け止めています。



今年度の経験を活かしながら
来年度も「ケアプランデータ連携システム」の導入など
新しい取り組みに前向きに挑戦していきたいと思います♥



～きらら藤枝　施設全体　我が事業所の取り組み～

令和7年度は「自立支援介護」を施設運営コンセプトに掲げ、全事業所で重点課題として運営に取り組んだ1年でした。利用者様の自立サポートを考え、健康状態の安定化に繋げるよう意識がけを行いました。また「生産性向上と業務改善」にも取り組んだ1年であったと思います。藤枝全体としては、7年ぶりに資金収支で僅かながらプラス収支を計上することが出来ました。しかし、各事業所で見ると、特養では後半に大きな空き日数が生じ、ショートステイも後半で利用率が下がりました。デイサービスは歩行訓練や企画に力を入れ、プラス収支に貢献出来ました。ケアプランセンターは、施設全体へ内部アシストを積極的に行うなど全体を支えましたが、事業所によっては目標に届かなかったことについて、重く受け止めています。今年度の反省をバネに次年度の収支改善に繋げ、黒字化を目指します。

地域活動としては「運営推進会議」を行い、自治会長様、民生委員様、学校関係者様などと「地域ニーズ」について話し合いながら、施設として地域貢献できる内容を皆様と考えることが出来ました。近隣中学校と職場体験実習を多く行うことや、子ども福祉体験等を通じて、地域に対して福祉施設への理解を深めていただくことが出来たと思います。

令和8年度は、「全事業所の目標達成」に向け挑戦すると共に、組織全体の取り組み目標である「自立支援」に対し、職員一丸となって推進し、収支改善に繋げていきたいです。職員一人一人の労働力提供により生産性を上げ、適正な人件比率化をもって人員不足でも対応できる組織づくりを意識し、「理念の実践」に向け行動していきたいと思います。

令和7年度　施設行事など

きらら祭り



敬老会





子ども福祉体験



きららサロン・地域サロン（参加）





令和７年度　きらら藤枝
特別養護老人ホームの取り組み



令和７年度はご利用者様ひとりひとりの想いに寄り添い「その人らしい生活」の継続を大切にしながら、自立支援を意識したケアの実践に取り組みました。各ユニットでは、介護職員を中心に多職種が連携し、日々の関わりの中で寄り添いながらご利用者様の持つ力を活かした生活の質の向上に努めました。

また、ミャンマーより新たに７名の特定技能職員を迎え、フィリピン職員と合わせ１２名の外国人職員が活躍しています。お互いに協力し合いながら、安心して生活していただける環境づくりに取り組みました。

今後も自立支援への理解と実践の定着を図り、多職種連携よるさらなる強化を行い、職員ひとりひとりの専門性向上を通して、ご利用者様の笑顔や楽しみに繋がる時間を大切にし、心豊かに過ごしていただけるようなサービス提供を目指していきたいと思います。



令和7年度 わが事業所の取り組み
きらら藤枝ショートステイ



令和7年度は、ショートステイは大きな変革の時期でした。職員構成も変わり、雰囲気が変わりました。今までと違い不慣れな部分も多く、ご迷惑もかけてしまったと思います。ですがその中で職員一人ひとりが連携しコミュニケーションをとり、以前よりもチームの輪が強いものとなりました。新たな仲間として、4人の外国人職員が入職してくれました。お互いに初めは不安がありましたが、仕事を覚えていく中でお互いに勉強になり、明るい前向きな彼女達の力が今では大きな力となっています。

職員全員で楽しく過ごしていただきたいと考えており、継続してレクリエーションや行事などの活動に取り組んでいます。毎日のレクリエーションに加え、おやつレクや作品レクやフラワーアレンジメントやドライブなどを行ってきました。外国人職員も、母国のお菓子を作ってくれました。

また機能訓練指導員が、11月より配置された事により、利用者の身体機能を維持・向上につながっています。歩行訓練や下肢筋力訓練に頑張って取り組まれている姿を見ると、自立支援にもつながりとても喜んでいただけています。



わが事業所の取組

きらら藤枝デイサービスセンター

≪　令和7年度　≫

いつまでも現役お母さん！私の居場所はきららにある！



今年度は、レクリエーション活動を通じて、心身ともに自立に繋がる支援を目指しさまざまな取り組みを行いました。

「もう危ないから料理はしない」「昔はやったけど家族が心配するから…」など、ご本人様の思いとご家族様の思いは、相手を思うからこそ噛み合わず、お母さん業をご卒業されているご利用者様が多くいらっしゃいます。そんなお母さんたちが昔を思い出し、“誰かの為に

お料理をする、今でも現役！”をテーマにした活動を計画しました。包丁を持ち野菜を切る、熱々のお鍋で豚汁をつくるなど、ご自宅では不安な事も、デイの安心できる環境でお料理を楽しみ、皆さまに召し上がっていただき、「美味しいよ！」と言っていただく喜びは心の活性化に繋がると思います。

活動を通じて、心身ともに元気になり、残存機能の維持を図る事が出来れば、在宅生活を

きらら藤枝ケアプランセンター

R7年度はチーム一丸となり、施設行事や困難事例に取り組んできました。利用者様が飼育できなくなったインコを保護し、皆の人気物に。この子たちも無事引き取り先が決まり、ほっとしました。来年もチームワークの良さを発揮しながら内部アシストにも頑張っていきたいと思います。





笑顔の絶えない事業所です！





お気軽にご相談ください！



きらら浜松　わが事業所の取組

きらら浜松にとって、運営的にとても厳しい年となり、3年連続の施設全体での赤字となってしまいました。浜松で唯一機能訓練デイサービスが黒字です。ショートステイも西館の返済を抱えながらも大きく赤字の数字を減らしています。
今年度はどの事業所も感染症の影響を大きく受けることなく、後半の稼働の減少は抑えることが出来ましたが、
それでも、長年きららの運営を支えてきた本館デイサービスが2年目の赤字、ヘルパーグループホームも赤字となっています。今年は、西館が好調があることがきららを支えています。
今までもお互いに支え合いながらの運営でしたが、令和8年度はお互いが目標を達成し、**何としても黒字**になるよう頑張ります。

令和7年度は、生産性向上に続き、自立支援に取り組みました。
利用者様の人生は要介護になっても続きます。この先の人生をどう過ごしたいのか、ご本人自ら選択できるよう介護職の気づきや視点が重要になってきます。
職員の負担軽減のためではなく、『支援の質』『やりがい』を高めることに繋げられることが真の目的であることを理解し、引き続き取り組んでいけたらと思っています。

今のきららがあるのは今まで一緒に働いてきた職員、過ごしてきた利用者様のおかげです。
誰が欠けても今のきららはありません。良い時期も悪い時期も、お互いを認め・助け合い自分たちが誇れるきららを皆で築いていけたら素晴らしいなと思います。

介護業界はこれからも大変ですが、自分たちが目指す介護は理念にあることを忘れず、令和8年度も駆け抜けたいと思います。

きらら浜松　施設長　鈴木



グループホームきらら浜松

令和7年度 *３つの　チャレンジ*。

一つ　地域の人たちを招いたマーマレード作り

地域の地域の皆様を招いて近隣から頂いた夏みかんを使ったマーマレード作りを行いました。地域の皆様、ご家族、入居者の皆様等総勢50名ほどの人が集いました。

二つ　浜松市のかいごterakoya事業の実施

夏休みの子供たちを日中預かるサービスで子供たちのエネルギーに圧倒されたひと月でしたが普段とは違う時間の過ごし方を入居者の皆様にはしていただけたかと思います。

三つ　共用型デイサービスの開始

数年来企図してきた共用型デイサービスがついに始動
入居者の皆様と通われる利用者様とがどのように過ごされるのがよいのか利点と課題を踏まえながら日々奮闘している毎日ですがまず一歩を踏み出したことは大きな成果でした。

マーマレード作り






かいごterakoya








デイ開始新しいお仲間が加わりました





令和８年度も目標達成に向けて職員一丸になって頑張ります。

きらら浜松
デイサービスセンター



うなぎパイ工場見学



昼食：釜飯

カフェへお出かけ





移動スーパー（とくし丸様）



手作りおやつ



少人数の集団体操 NEW







（↑ハンド）（フェイス→）
マッサージ始めました NEW

令和7年度は、当初、目標収支の達成できるペースで推移したものの、終了者の関係もあり、最終的には目標達成には至りませんでした。

しかし、内覧会、マッサージ等、新たな取り組みを行った成果か、年度末には、多数のお試しを紹介して頂けました。

そのため、この勢いを維持して、令和8年度こそは、必ず目標達成できるように、職員一同頑張っていきたいと思います。

【ほのぼの】を活用した業務の改善に取り組みました

それぞれ別々の書式で記入していた ┬ 訪問介護計画書
　　　　　　　　　　　　　　　　　├ モニタリング　⇨　【ほのぼの】内の書式に入力を統一
　　　　　　　　　　　　　　　　　└ 手順書









きらら浜松
ヘルパーセンター

≪改善された事≫

- 残業時間減少･･･令和6年度　残業時間　1人当たり平均　70.8時間
  令和7年度　残業時間　1人当たり平均　27.7時間
- 書式変更により、入力がスムーズになり残業時間が減った
- 担当利用者が変更になる時に、USB内の情報を職員間で入れ替えする必要が無くなった
- 見やすくなった
- ソフトへの入力により、職員全員が全利用者の書類を閲覧、入力する事が可能になった
- 職員全員が共通してケアにあたる事ができるようになった
- 時間に余裕が出来、利用者様について検討したり話が出来る時間が増えた
- 自立支援への意識も高まってきた

今後も業務改善を継続し
利用者様と向き合う時間を大切にしながら
自立支援に繋がる支援をしていきます！



きらら浜松

ショートステイ

「利用者様の
笑顔が見たい！」
をモットーに、職員一丸
となって日々
様々なレクや行事を提供
しています







外出レク・季節のイベントレク・日替わりレクの様子





皆さん笑顔一杯！！











機能訓練デイ

令和7年度	
新　規	72件
おためし	87件

好きな運動ベスト3

1位　ウォーターベット

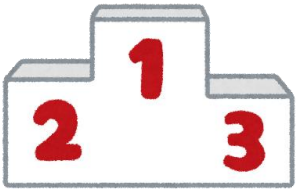


2位　グループ体操



3位　バイク（ペダル）





笑いのあるグループ体操！！脳トレや歌も交えた体操！！







発行年：2026年5月

発行人：
きらら浜松西館
機能訓練デイ職員

私がんばってます！

あきないデイ！！笑顔のデイ！！







洗濯物はおまかせ！

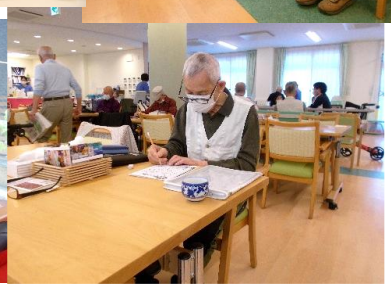


計算や塗り絵など
脳トレがんばってます！









「理念」

「きらら」とは、「心の通う憩いの場」

わたしたちは、輝かしく過ごされたご利用者様の半生に、深い尊敬と共感の心をお伝えしたいと願い、そのために、どんな時もきらきら輝く笑顔があふれている施設を目指す、それが私たち県民厚生会「きらら」全職員が共有する使命です。

法人概要（組織沿革）

・平成 17 年 12 月 28 日　法人設立認可（平成 18 年 1 月 6 日登記）
・平成 18 年 10 月 24 日　「特別養護老人ホームきらら藤枝」開始
　「きらら藤枝ショートステイ」開始
・平成 18 年 12 月　1 日　「きらら藤枝ケアプランセンター」開始
・平成 19 年　6 月　1 日　「きらら藤枝デイサービスセンター」開始
・平成 12 年　7 月　1 日　「グループホームきらら富士」開始
・平成 13 年　1 月　1 日　「きらら富士ケアプランセンター」開始
・平成 13 年　1 月　1 日　「きらら富士デイサービスセンター」開始
　「きらら富士ヘルパーセンター」開始
・平成 15 年　1 月　1 日　「きらら浜松ケアプランセンター」開始
　「きらら浜松ヘルパーセンター」開始
・平成 15 年　3 月　1 日　「グループホームきらら浜松」開始
　「きらら浜松デイサービスセンター」開始
・平成 20 年　1 月　1 日　きらら富士・きらら浜松　県民共済より事業移管
・平成 29 年　1 月　1 日　「きらら浜松ショートステイ」開始
　「きらら浜松機能訓練型デイサービス」開始
・令和　3 年　7 月　1 日　「きらら富士障害福祉サービスヘルパーセンター」開始
・令和　4 年 12 月　1 日　「きらら富士グループホームデイサービス」開始
・令和　6 年 10 月 31 日　「きらら浜松ケアプランセンター」事業休止
・令和　7 年 10 月　1 日　「きらら浜松グループホームデイサービス」開始